

心を燃やして

「命の力強さ」を器の造形で表現したいと思い制作しました。形と三色の色使いによって生命の力強さを表し、どの角度から見ても動きを感じられるよう意識しました。釉薬の掛け方にも工夫し、色がより鮮やかに際立つようになっています。



「息吹」 令和7年度長崎県高等学校総合文化祭『美術部門』工芸部門 **優秀賞**
令和8年度全国大会（あきた総文 2026）推選作品に決定！

ここに注目！

緊急物価高騰対策 決まる (P8-9)

はさみ



No.174 令和8年2月号

議会だより



議会情報

今月の
はさみの人

ひきば
引場 かりんさん
波佐見高校 美術・工芸科 1年
(早岐中学出身)



議長あいさつ

波佐見町議会 議長 尾上 和孝



12月定例会におきましては、「補正予算」をはじめ「条例改正」など計13件の重要な案件が提出され、議員各位による真剣な審議を経てそれぞれ適切妥当な結論を得ることができました。また、一般質問においては8名の議員が登壇し、多種多様な住民意向を踏まえた多岐にわたる議論が交わされました。



トラウトサーモン養殖場

11月14日には東彼杵町にて「郡内町村議会議員研修会」が行われました。同町では山間部でのトラウトサーモン養殖に取り組まれており、この陸上養殖という手法は、海のない波佐見町においても持続可能な新産業モデルとなり得るのではないかと、非常に興味深く見学いたしました。

11月30日には「ながさきピース文化祭 2025」の閉会式に出席いたしました。

フィナーレでは「皿山人形浄瑠璃保存会」による人形芝居が披露され、波佐見が誇る歴史文化を広く発信する貴重な機会となりました。期間中、町内でも波佐見町講堂を中心に様々なイベントが開催され、多くの方々に足を運んでいただきました。開催にご尽力いただいた関係者の皆さまに、深く敬意を表します。

12月14日には、西九州自動車道「松浦佐々道路」の開通式に出席いたしました。西九州自動車道は、福岡県を起点に唐津・伊万里・松浦・佐世保・波佐見有田を經由し、武雄市に至る全長約150kmの自動車専用道路です。町議会としましては、全線の早期開通はもとより、武雄南ICから佐世保大塔IC間の早期4車線化、および波佐見有田IC付近への休憩施設設置について、今後も強く要望してまいります。



「皿山人形浄瑠璃保存会」による人形芝居

私も議員は改選から2年目を迎えています。今後とも議会として積極的に情報を発信し、町民の皆さまの暮らしを守るという気概をもって、より一層活発な議会活動を推進してまいります。

「議会モニター会議」が開催されました

町議会は、町民からの要望や意見を聴取し、もって議会の円滑かつ民主的な運営を推進することを目的に「議会モニター」を設置しました。

令和7年8月21日に8名の方に委嘱状を交付し、「第1回 議会モニター会議」で活動内容について説明しました。

12月15日に開催した「第2回 議会モニター会議」の内容について紹介します。

1 会議の内容 ▶

(1) 議会からの説明

各委員会より9月から12月までの活動等について説明しました。

(2) 意見交換会

＜協議の柱＞

- ①議会審議 ②一般質問 ③議会の日程の周知 ④質問や質疑
- ⑤議会だより ⑥ホームページ ⑦議会の雰囲気

2 モニターからのご意見等 ▶

- ・町民の意識を高めるために、傍聴者を増やす方法を考えてほしい。
- ・一般質問は、執行部との馴れ合いが多く形式的なことばかり。もう少し緊張感をもって行ってほしい。
- ・町民は、質問した内容がその後どうなったのかを知りたい。中間発表等はできないのか。具体的に町民に知らせることが必要である。
- ・「検討したい」との答弁が多いが、「いつ解決するのか」「対応期限を決める」などまで追求すべきではないか。
- ・一般質問の質を高めるための勉強会を行ったらどうか。
- ・専門的な用語等が多いので、その解説や説明をしてほしい。
- ・町民の関心は高いので、「議会だより」でうまく伝えてもらえると町民の理解は深まる。
- ・審議は的確に行われていた。しかし、答弁で分かりにくい点があり、もう少し具体的な答弁を行政側に求めてもよいのではないか。

3 所感 ▶

今回のモニター会議で、モニターの方の議会に対する関心の高さを痛感いたしました。いただいたご意見等を今後の議会運営に活かし、町民の声を反映できる議会活動に努めたいと思います。



1 行政視察

- ・ 10月9日（木）福岡県糟屋郡篠栗町クリエイト篠栗（教育委員会）において、篠栗町立図書館の運営について行政視察を行いました。
- ・ 10月10日（金）福岡県鞍手郡鞍手町役場（教育委員会）において、鞍手町立小学校統合計画について行政視察を行いました。



◀ 鞍手町役場



篠栗町立図書館 ▶

2 付託事件の審査 11月6日（木）

- ・ 7 請願第 1 号「核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書を政府に提出することを求める請願書」について審査し、委員会として全会一致で採択することに決定しました。

3 所管事務調査（教育委員会） 11月18日（火）

- ・ 総合文化会館の整備と管理運営について

今年度より図書館を中心とした大規模な改修工事が計画されており、利用者が活用しやすい、住民のコミュニティ活動の拠点・施設となるよう、議論を交わしました。

- ・ 部活動地域移行の現状について

地域の外部指導者の確保が厳しい状況にありますが、生徒たちが充実した中学校生活を送るためにも、体制整備を図るよう求めた。

篠栗町立図書館 にズームイン!!

◀ 行政視察に篠栗町を選んだ理由 ▶

- その1 九州管内にある。 ●その2 図書館が町民に有効活用されている。
- その3 学習室や学習スペースが完備されている。

	福岡県粕屋郡篠栗町	長崎県東彼杵郡波佐見町
人口	31,233人（令和7年3月末）	14,039人（令和7年3月末）
面積	38.93km ²	56.00km ²
R7当初予算	約145億円	約104億円
施設名 (通称)	篠栗町総合センター (クリエイト篠栗)	波佐見町総合文化会館 (ウェイブホール)
施設の開館	平成5年4月（1993年）	平成10年3月（1998年）
総工事費	29億2500万円	15億5960万円
総床面積	5,988m ²	4,193m ²
施設の 管理運営	・教育委員会 館長：社会教育課長 社会教育班が事務室に常駐している	・教育委員会 館長：教育長 ・管理はルピナスに民間委託
図書館の 管理運営	・図書館長：社会教育課長補佐 ・再任用職員が図書館副館長として 図書館事務室に常駐している	・図書館長：教育長 ・常駐は会計年度職員及び臨時職員 のみ

クリエイト 篠栗 1階



※学習室（44席）は2階に、学習スペースはロビーの左側に広く設けてあります。

●まとめ

文教厚生委員会では、昨年7月にも佐賀県上峰町の総合施設「ふるさと会館」にある図書館の視察を行いました。本町の図書館改修工事が、令和9年4月には始まる予定です。多くの方々に活用される賑わいのある会館・図書館へと生まれ変わるよう、これからも町民皆さまのご意見・ご要望を届けてまいります。

窯業界との意見交換会を行いました。

令和7年8月、波佐見焼の原料である天草陶石を使って作られる陶土の価格が、25%と大幅に値上げされました。様々な生産資源が物価高騰する中で、窯業界に与える影響は甚大ということで、早めの支援ができないかと、委員会としても様々な活動を行い、議会として町と県へ支援を求めました。

結果として、波佐見町において12月定例会に上程された一般会計補正予算にて、地場産品原材料価格高騰緊急対策事業費補助金として支援が決まりました。

また、長崎県においても、同様に陶土代の値上げに対する補助が行われます。

今後も、波佐見焼産業が持続できる環境支援に向けて、業界の意向を伺いながら町や関係自治体と連携し、調査研究を進めてまいります。

9月25日（木）

バス・乗合交通についての商工観光課に対する所管事務調査を行いました。

西肥バス「佐世保嬉野線」の今後の路線再編計画に則った補助の前提となる地域公共交通利便増進計画の概要を調査しました。

また、運行形態が変更になる、乗合交通の概要についても説明を受けました。いずれの公共交通ともに、少子高齢化が進展し、利用者が高齢化する中で、運行事業者の乗務員確保が困難となるなど、課題は山積しております。

事業者の意向を踏まえつつも、利用者の利便性が向上するように、引き続き市民の意見を十分汲み取り、他地域の事例研究を行うよう求めました。

また、10月22日（水）、かわたな・はさみタウンバスの利用状況についても調査を実施しています。

昨年3月まで運行されていた西肥バスと概ね変わらない利用状況とのことでした。



「かわたな・はさみタウンバス」

～波佐見焼の基盤を守るため、 原材料高騰の現状を調査～

経緯： 波佐見焼の主原料である陶土は、令和7年8月より25%の値上げが行われた。波佐見焼振興会と議会は会合を開催し、対策について協議を行ってきた。9月議会では「業界支援の必要性について」の一般質問も多く、10月28日には議会と行政が一緒になって県へ支援を要望した。

12月議会では、初日に業界支援1,700万円の補正予算を全会一致で可決した。さらに長崎県は、国の重点支援地方交付金を活用し、波佐見町に5,600万円の補助を行うことになった。

このようなことから、町民の物価高支援に先駆け地場産業の支援に動いたことで、議会としても陶土の値上げの現状を把握する必要があると判断し、今回の緊急視察となった。

- 日時 令和7年12月17日（水）
- 場所 ㈱上田陶石（熊本県天草市）
- 内容 ①採掘 ➡ ②運搬 ➡ ③洗浄 ➡ ④仕分け



【陶石の歴史】

天草陶石の利用は、古くは江戸時代までさかのぼる。全盛期、年間の出荷量は、3万～4万トンと言われていた。当時は、肥前のやきものをはじめ「碍子（がいし：電線を絶縁する磁器製品）」の原材料にも用いられ、日本の電力普及に大きく貢献した。

【採掘の現状】

現在は、月間150～200トンの出荷。大型重機の利用はあるが、洗浄・仕分けは人の手作業であり、現在5名のスタッフで行っている。大規模な機械化の導入には、多額の投資が必要であるため考えていない。

【陶土値上げの理由】

今回の値上げは、人手不足に伴う賃金の値上げや燃料等の物価高騰を受けての判断。今後、諸般の事情によっては、さらなる値上げが見込まれる。

【まとめ】

やきもの産業は、資源がないといわれる日本において国内の資源を活用した数少ない産業である。しかしながら、年々生産量の低下と比例して売上高も減少している。本町のやきものづくりでは、分業体制で付加価値をつけているものの、今後の物価高などがそれぞれの事情と相まって、さらなる不安定をもたらす可能性は否定できない。

今回の視察では、原材料となっている陶石採掘の現状を知ることができ、将来のやきもの産業に対する支援のあり方を考える重要な一歩になった。

12月議会 審議の目玉はこれだ！

審議された議案の中から令和7年度波佐見町一般会計補正（第4号）について報告します。

議案第77号

令和7年度波佐見町一般会計補正予算(第4号)

補正額 1億6,100万円追加 補正後の総額 108億8,500万円

ここに注目

地場産品原材料費価格高騰緊急対策事業費補助金(新規) **1,900万円** (陶土 1,700万円 酒米 200万円)

これは、陶土代高騰緊急対策事業として令和7年8月からの陶土の値上げ（25%）に対応するものです。

令和7年8月から12月までの期間陶土購入額の値上げ分に対し1/2を補助。

また、あわせて酒米価格の高騰緊急対策としても、前年との差額の1/2相当額を補助。

財源は

今議会閉会後になると思われる国の補正予算成立により、財源組み換え可能なものは重点支援交付金を充てる予定とし、今回先行して補正予算を計上したものです。

追記

今回の補正予算成立直後、県議会議長からの報告によると長崎県においても物価高騰対策を含む補正予算が成立し、陶土代や酒米代の高騰分の補助が決定したとのこと。

今回のスピーディーな対応は素晴らしいといえるでしょう。ナイス！

請願

7請願第1号

核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書を政府に提出することを求める請願付託*を受けた文教厚生常任委員会の審議結果は全会一致で採択することに決定。

「討論」 賛成討論 1名

採決 全会一致で採択することに決定した。

賛成討論

岡村 達馬 議員



80年前、広島と長崎に投下された原子爆弾で、熱風と爆風を受けながら辛くも生き延びられた被ばく者たちは自らの傷あとをさらし、原子爆弾の悲惨さを伝え、世界の反核運動の先頭に立ちその思いを伝えてきました。

被爆者たちは体調不良や差別に苦しみながらも、大きな声を上げる人たちは少なかったのですが、それでも地道に「核兵器と人類は共存できない」とし、反核運動を確実に進められました。

県内では小学校から高校に至るまで、原爆の悲惨さを受け継ぎ伝えていくために、平和教育授業があります。

世界で唯一被ばくした日本人・長崎県人として、一日でも早く核兵器禁止条約の署名、批准を求める意見書の政府提出を求める本趣旨に賛成をいたします。

※付託…詳細な検討のために委員会に審査を任せること。

令和8年1月臨時議会議案審議ピックアップ

令和7年波佐見町一般会計補正予算(第5号)

補正額 10億7,500万円の追加

補正額の総額 119億6,000万円

歳出の主な内容

重点支援地方交付金事業 **3億4,300万円** 追加

プレミアム商品券事業 1億3,160万円

自治会除草機購入事業費補助金 2,200万円

農林業経営支援事業費補助金 1,000万円

地場産品原材料価格高騰緊急対策事業 1億1,500万円

(12月議会可決分を含む)

水道料金支援事業 2,160万円

物価高対応子育て応援手当支給事業 4,958万円

本議会で審議された案件

議案
20件

報告
1件

請願
1件

議案等別審議
結果はこちら



請願の採択
状況はこちら



提出された案件は、全会一致で可決および採決されました。

審議の結果

12月定例会	補正予算	<ul style="list-style-type: none"> ■ R7一般会計(第4号)(給与改定、物価高騰対策事業の追加) ■ R7特別会計 国民健康保険(第2号)、介護保険(第2号) ■ R7公営企業会計 上水道(第2号)、下水道(第2号) 	原案可決
	条 例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 職員等の旅費に関する条例の改正 ■ 印鑑条例の改正 ■ 家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の改正 ■ 有料駐車場の設置及び管理に関する条例の改正 ■ 景観条例の改正 ■ 使用料及び手数料条例の改正 ■ 水道条例及び水道布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の改正 	
	報 告	■ 専決処分※の報告	
	請 願	■ 核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書を政府に提出することを求める請願書	採 択
1月臨時会	補正予算	■ R7一般会計(第5号)(重点支援地方交付金事業の追加)	原案可決
	条 例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 議員の報酬・費用弁償等に関する条例の改正 ■ 町長、副町長の給与条例の改正 ■ 一般職の職員の給与条例の改正 ■ 乳児等通園支援事業の設備・運営に関する基準を定める条例の改正 ■ 特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例 ■ 乳児等通園支援事業の実施条例 ■ 子ども・子育て会議条例の改正 	

※専決処分…緊急時、議会を待たずに町長が判断すること。

12月
定例会

8人が登壇 一般質問

一般質問の議員別動画は、
こちらから。12月定例会の
動画リストが表示されます。



町内学校の不登校・いじめは

教育長 個々に寄り添った対応指導

岡村 達馬 議員

質問項目

- ・波佐見町の学校問題・課題
- ・技術職員の確保と学習環境の整備

昨年の不登校は全国で35万人を超えている。12年間連続の増加である。また、いじめについても4年連続で全国的に増加している。

議員 本町の状況はどうか。新たな対応が必要ではないのか。

教育長 全国的に不登校児童・生徒数の増加は、喫緊の課題であり、本町においても微増の傾向にある。しかし、本町では一人一人に寄り添ったきめ細やかな支援を行うことにより登校できる児童・生徒も出てきている。

議員 いじめについても増加傾向にあるが、町内における小中学校での状況と対応は。

教育長 増加傾向についても極めて憂慮すべき事態だと認識している。平成26年3月に制定した「波佐見町いじめ防止基本方針」に基づき、定義を広くとらえ、迅速で丁寧な対応をしている。

いじめって…?

例えば次のようなことが「いじめ」とされます。



文部科学省が示すいじめの定義

自治体職員は平成8年度との比較であるが、令和3年度で14.4%少なくなり、特に土木技術部門では13.2%減少している。

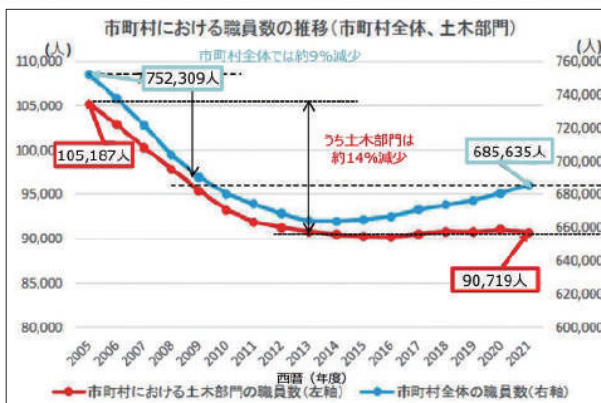
議員 毎年の募集に対し、応募者が少ない背景は何か。

町長 職員採用環境が大きく変わり、令和元年21人が今年は9.6人と半減している。また、民間企業の待遇改善が進んで、若年層の魅力となっている。

議員 技術職員の不足により業務を委託する傾向にあるが、対応はできているか。

町長 建築については会計年度職員として1級建築士を雇用している。

市町村の職員数の推移・技術系職員数



地方公務員の推移

議員 現場の品質確保などのため、技術職員の資格取得が必要だが、キャリアアップをどのように図っていくのか。

町長 施工管理など、工事の良好な品質確保に必要ななら、施工管理資格取得の検討に値すると考える。

つぶやき

コンサルタント委託前は職員でほぼ全部を対応してきた。業者などとの協議や成果品を見極めるためにも、国家資格は必要不可欠だ。



質問項目

- ・安心・安全なまちづくり
- ・教育行政

県管理下の2級河川整備計画は

町長 県は補正で3億円の事業費を確保した

田添 有喜 議員



自然災害は予期できず、いつ発生するかわからないことが住民の不安を招いている。ゆえに、事故や災害への未然対策が必要なことは言うまでもない。

議員 町道及び県道の維持管理上の課題は。

町長 共通課題は、道路の経年劣化や除草が挙げられる。町道は本数も多く、早めの対応が厳しい場面もあるが、現地を確認し、適切な対応に努めている。

県道については、綿密な情報共有を図り、必要に応じて要望している。

議員 歩道の植栽撤去はどうなっているか。

町長 植栽の計画的な撤去の考えは変わっていない。町内のバランスを考えて対応したい。



歩道の植栽

議員 県道に繁茂する雑草や「わだち掘れ」への対応については。

町長 情報提供は行っている。県も現地調査を行っている。「わだち掘れ」については、原因解明の検証を行っている。

議員 県道の規制線や中央線等の対応は。

町長 以前舗装工事の際に対応すると説明したが、その後の対応については情報が入っていない。県に再確認する。



消えてる中央線

議員 町管理下にある普通河川の整備に、どのような課題があるのか。

町長 普通河川は26河川あるが、適切な管理に努めている。課題としては、河川内の浚渫が地区から挙がっている。

議員 県管理下にある2級河川の整備について、県とどのような協議を行い、今後の計画についてどのような情報が入っているか。

町長 河川内の浚渫や樹木の撤去の要望が多く、県の担当課が現地に数多く足を運び、状況把握に努めている。令和7年度予算として補正で3億円の事業費を確保し、大小合わせて13か所の浚渫と伐採が予定されている。

議員 普通河川及び2級河川の橋梁の点検及び整備計画は。

町長 町道の橋梁については、5年を一つのサイクルとした点検を行っている。39橋については、職員で実施し、115橋は、県内の自治体で協働し、長崎県建設技術研究センターに委託し点検している。国が示す4段階の損傷レベルの基準で、レベル3及び4が補助事業では優先されるが、町内の橋梁には該当するものがない。

議員 「白磁橋」の陶板の劣化が目立つが今後の対応は。

町長 損傷レベルは2くらいであるが、今後対応を検討する。

議員 河川敷のツツジの撤去は。

町長 計画的に実施する。本年は宿郷から田ノ頭郷の区間を予定している。



「白磁橋」の劣化した陶板

文部科学省は、令和7年9月25日に「公立学校教職員の業務量の適切な管理、その他教育職員のサービスを監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」を発表した。その適用は令和8年4月1日になっている。

議員 現在の取り組み状況は。

教育長 教員業務の削減と効率化、教職員以外の人材活用、で教職員の業務負担軽減を図っている。

議員 今回の指針を受け、令和8年度の予算計上は。

教育長 現時点では新たな予算計上を伴うのではなく、既存施策の継続・拡充が中心となる。

議員 今後、どのように取り組んでいくのか。

教育長 令和8年4月1日の適用に向け、教職員の心身の健康を守り、子供たちと向き合う時間を最大化できるよう、今回の指針を改革の好機と捉え取り組んでいく。



教職員の働き方改革が進む中、

課題も多い。これまで学校で

行っていた業務を地域

への動きがある。教育委員会は、地域の理解と協力を得るために積極的に働きかけてほしい。





小学校再編の委員会設置を

教育長 現段階では時期尚早

横山 聖代 議員

質問項目

- 小学校の編成

町内の児童数は年々減少している。出生数も令和5年度以降は100人を切り、将来的な学校規模の縮小が避けられない状況。子供たちにとって、よりよい学習環境を確保するためには、学校の適正規模や適正配置の点から、今後の学校再編についての検討を開始する必要がある。

議員 東・中央・南小学校の児童数推移と今後の見通しはどう分析するか。

教育長 出生数の減少に伴い児童数も減少傾向。令和13年度には約21%、170人の減少が見込まれ、学校規模の縮小は避けられない。

議員 現在の学校規模による教育環境の評価は。

教育長 小規模校の利点は、きめ細やかな指導や異学年交流の活発さ。課題は、多様性や専門性の不足、教職員の負担増である。

議員 小学校再編に向けた検討の必要性についてどう考えているか。

教育長 将来的に再編は避けられないと認識している。ただし、現段階では各校が特色ある教育活動を展開しており、具体的な時期は示せない。

議員 地域や保護者、学校関係者が参加する検討委員会を設置する考えはあるか。

教育長 委員会の設置は必要不可欠と考えているが、統廃合は繊細な問題であり、現時点で具体的な設置時期は示せない。

議員 3小学校の過去10年間の工事費は。

町長 約5億7,800万円。

議員 今後10年間、3小学校を維持していく長寿命化工事も含めた維持管理費の見込みは。

町長 約21億円と見込んでいる。

議員 5年後には3小学校の新1年生は合わせて84人。その後も100人を切る。児童数の減少や財政面を踏まえ、検討委員会を早急に立ち上げるべきではないか。

教育長 必要性は認識している。ただし、まずは懇話会的な場で現状を共有し、住民や保護者の理解を深めることが重要。統廃合は避けられない課題だが、時期については慎重に判断する必要がある。

議員 統廃合をめぐる学校の再編には、大変な時間と労力がかかる。統廃合という結論ありきの検討委員会ではなく、まずは、町の教育のあり方、学校のあり方につき、地域・保護者・学校関係者の意見を集約するための場、現状分析する場は必要。早急に検討委員会を設置すべきでは。

教育長 3校がそれぞれ教育活動を充実して展開している中で、統廃合に係る提案や検討を始めることは時期尚早ではないかというのが、教育委員会の判断である。

令和元年度～令和7年度 出生数および各小学校入学推定数

出生年度	令和元年	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (10月末)
出生数(人)	113	123	105	111	84	92	61
新1年生時	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度
東小学校(人)	19	17	19	18	16	15	6
中央小学校(人)	49	58	42	45	30	45	28
南小学校(人)	45	48	44	48	38	32	27



統廃合ありきの検討委員会設置と言っているわけではない。児童減少は確実に進むなか、小学校のあり方につき、意見の集約は必要。既存の色んな会ではできないのでは。



質問項目

- 県への要望書提出
- ふるさと納税

「ふるさと納税」は大丈夫ですか？

町長 制度に一定の不安はあるが…

岡村真由美 議員



県道の雑草や県が管理する河川の雑木等に関する要望は、毎年町へも多く寄せられている。

議員 町民からの要望にはどう対応しているか。

町長 職員が現場確認を行い、県に連絡する。その後、県の担当課による現場確認が行われ、写真や地域の意見などを添えた要望書を作成して県に提出している。

議員 県道の雑草の除去について県北振興局と契約を結んでいる自治会はいくつあるのか。町はそれについて周知しているか。

町長 4つの自治会で行われている。定例の自治会長会で周知を図っている。

議員 今年度、浚渫・伐採の工事が行われる箇所は。

町長 川棚川の本流では、陣川橋から村木川の合流部までと梅野高野駐車場周辺。支流では、やきもの公園周辺などの11か所が予定されている。



川棚川支流 志折川小野橋付近の様子

議員 雑草の繁茂、土砂の堆積を放置した場合、町民の生活にどんな影響があると考えられるか。

町長 水の流れを阻害し、氾濫などの可能性が高まる。

河川整備の第一の目的は、町民の生命と財産を守る防災機能の向上である。

近年、波佐見町には県内では佐世保市に次いで多くのふるさと納税による寄付金が寄せられている。将来的に安定した財源といえるのか。

議員 昨年度、町税とふるさと納税の諸経費を除いた額との比率はどうなっているか。

町長 町税10に対し、諸経費を差し引いた額は7となっている。

議員 かなり依存度が高いようだが、大丈夫なのか。

町長 過度に依存することなく、安定的な自主財源の確保に努める。寄付金を一時的な収入として計画的に活用する。

議員 制度から除外された自治体がある。どんな点に気をつけているか。

町長 返礼品の調達費が3割を超えない、調達費と手数料や運送料などの諸経費を5割以下にする、など。重要な財源の1つであるため、制度の趣旨を踏まえ健全な運営を堅持していく。制度改正の動向も注視し、制度運用の透明性と信頼性を確保していく。

議員 「企業版ふるさと納税」の実績についてはどうか。

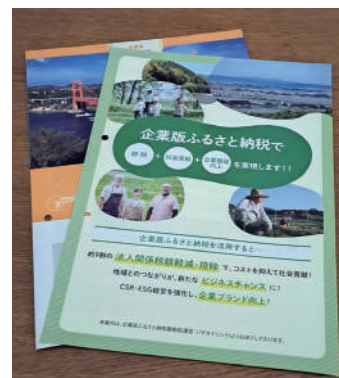
町長 これは「地域創生応援税制」の通称であり、自治体の「地方創生プロジェクト」に対して企業が行う寄付をいう。波佐見町には、本年度までに6件、総額1,430万円の寄付をいただいている。

議員 その主な用途は何か。

町長 今年度は、総合文化会館内にある図書館改修工事における設計費用の一部に活用させてもらっている。

議員 町外の企業に対して広く応援を呼びかけているか。

町長 今後はパンフレット等の作成も検討したい。



他市で作成されているパンフレット

つぶやき

ふるさと納税制度から除外されると、本町は約9億円の収入をなくし、町民も約6億円分の返礼品の買い取り先をなくすることになります。そんなことになれば、かなりの痛手ですね。





物価高騰を受け公共施設のあり方は

町長 来年度の計画策定で検討していく

城後 光 議員

質問項目

- 持続可能な町運営

物価高騰・金利上昇が続いている。本町の公共インフラの多くがこれから更新時期を迎えるにあたり、その整備計画策定時期となる。持続可能な財政運営を行うためにも計画全体を見直す必要に迫られている。

議員 今年3月に第8次行政改革大綱が策定され、この計画に基づいて町業務の見直しが進められている。大綱の要点は。

町長 人口減少社会の到来を受け、行政課題のみではなく、自治会等まちづくり団体との関係にも積極的に向き合った内容である。

具体的には、政策評価による事務事業の見直し、ワークライフバランスの推進、地域運営組織の支援などについても取り組む姿勢を含んでおり、事業の削減だけではなく、地域をどう持続可能なものにするのかを含んだ攻めの大綱になっている。

議員 自治会やまちづくり団体の支援について、今後どのような方向で進める考えか。

町長 町行政を取り巻く課題は増える一方で、職員数を大幅に増やすことは難しく、自治会などの地域運営組織が暮らしを支える担い手となることが求められる。

しかしながら、自治会への新規加入者が減少傾向、役員の成り手不足など、課題は山積している。また、まちづくり団体を組織・強化していくには時間がかかり、その活動を期待することはすぐには難しい現状がある。

10年・20年先の本町を考えるに、現状のままでは難しいと考えられる。

これまでは、長い歴史を持った自治会制度でまちづくりの基盤を形作ってきたが、現状の住民の働き方などに即した自治会のあり方を進めるにあたり、これまで以上に行政の役割を持った公的団体の位置付けを行うなど、行政にも頭の転換が必要である。

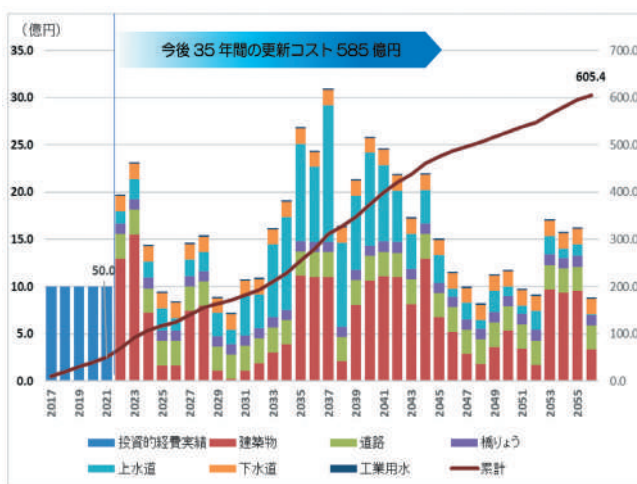
多様な考えを持った上で、行政・自治会、そして町民が、持続可能な地域を作るために、心を一つに検討していくことが重要と考える。

議員 令和3年末に策定された現在の公共施設等総合管理計画において、今後35年の施設更新に要する施設改修・建替えのコストは㎡あたりそれぞれ25万円、40万円と想定されているが、物価高騰の影響を受け、現在の積算コストはどうなっているか。

町長 現在、総合文化会館の改修を行うにあたり、図書館施設の改修及び新設建屋設計を行っている。この概算工事費としては、改修部分で㎡あたり50万円、増築部分で80万円での計画を行っている。

議員 4年で2倍という建設費用増加を踏まえると、公共施設の既存整理統合を進める計画も必要と考えるがどうか。

町長 来年度の公共施設等総合管理計画の見直しにあたり、本当に更新が必要か、面積は妥当か、統合廃止はできないか、費用面を含めて十分検討を行っていきたい。



今後35年の町施設更新コスト概算
(令和4年改訂 公共施設等総合管理計画より)

つぶやき

答弁を聞いていると、
まだまだ将来負担に関
する危機意識に乏しいと感じる。



質問項目

- 放課後児童クラブ
- 町長の所信表明

南小校区の児童クラブは公設民営で

町長 公設での設置を検討中

脇坂 正孝 議員



本町の放課後児童クラブ（以下「クラブ」と記載）は、各小校区で3施設が運営されている。令和7年度は「よりそっと」でも緊急的に受け入れているが、全体的に定員に余裕がないようである。

議員 3施設の定員と受け入れ人数の今後の見通しは。

町長 定員は東小校区と中央小校区が各70人、南小校区が40人である。登録はいずれのクラブも定員を上回っている。今後、令和10年度までは定員180人を上回る需要が見込まれる。

議員 令和8年度の利用案内では、3施設とも余裕がないように見える。定員超過の場合の対応はどのようなのか。

町長 令和7年度と同じく、「よりそっと」による緊急対策を実施する予定で、既に申し込みを受け付けている。

議員 南小校区のクラブは、施設の利便性、立地条件などから施設の早急な移設が必要で、公設民営化すべきでないか。

町長 アンケートの分析でも、アクセス性や利便性の向上、送迎時の安全確保を求める声が寄せられている。これらの要望を的確に反映させることがサービスの質と継続性を確保する上で

不可欠と認識している。民設民営も考えられるが、40人以上の収容施設を民間で用意することは困難で、公設設置を検討している。

議員 「よりそっと」通所の児童数は何人か。

町長 中央小校区から8人、南小校区から9人。

議員 「よりそっと」による緊急対策はいつまでか。

町長 来年度までは緊急対策で対応し、それ以降は所定のクラブで運営したい。

議員 南小校区クラブの定員40人は、見直しが必要ではないか。

町長 40人以上のクラブが必要と思っている。

議員 同クラブの移転及び建設場所として、農村環境改善センターは最適な場所と思うがどうか。

町長 同敷地も候補地の一つである。公設民営の方向で検討を進めているが、リース物件が補助対象になれば、借上げて運営する方法もある。



候補地の一つ、農村環境改善センター広場



南小校区の児童クラブ



南小校区クラブの移転が動き出したことは、関係の児童・保護者・運営者を始め、地域の喜びである。定員増で待機児童が解消し、クラブのさらなる発展を念願する。





本町の熱き思いを長崎県に

町長 しっかりと伝えます

北村 清美 議員

質問項目

- 地場産業「波佐見焼」における官民一体の共創対策
- まちづくり

人口減少は本町に限らず国全体としての大きな課題である。賢く縮むこと（スマートシュリンク）がこれから大きな流れになると思われる。しかし、我々は人口増加や出生数増加のための政策をあきらめずに続けることが重要である。また、現状維持の「対策」ばかりではなく、その先の「夢」を考えることが大事である。

議員 本町は福岡・長崎のベッドタウンとして、推進策は考えられないか。

町長 本町では出生と死亡による自然動態では減少幅が大きいものの転入と転出による社会動態は、令和6年に74人増を記録しており、7年については11月末現在で15人増。2年連続での社会増を記録する可能性が出てきた。これまでのあらゆる施策の成果であり、現状維持ではなく、攻めの施策が功を奏していると分析している。

自然豊かで感性あふれる波佐見町に住み、収入面でも期待が持てる都市部へ仕事を求め、通勤も十分可能な位置でもある。今後、支援策も含め、研究する必要がある。

地場産業「波佐見焼」における官民一体の共創対策について

佐賀県有田町とは、窯業界・役場・（商工観光課）・議会において協議会等を相次いで開催している。両町が一体となり、この未曾有の共通危機を乗り越えるために、お互い協力していくことを確認している。そして、本町は10月に県に対して要望書を提出し陳情したところである。



天草陶石場

議員 県と本町はサプライチェーン（供給から販売までのプロセス）、及びデマンドチェーン（顧客の需要）の対策について、どのように考えているか。

町長 天草陶石の安定的な供給体制の維持に向けて、県域を超えた連携を要望した。陶石は熊本県（天草）、陶土業者は佐賀県（嬉野）、陶土を多く使用している長崎県（波佐見・三川内）。天草陶石のサプライチェーンが途切れると産地の存続の危機に陥るため、自治体間が課題を共有し、対応することが重要である。各県をまたがる取組となり、県を通じて国にも働きかけることも重要である。デマンド事案は消費者ニーズの把握や訴求力のある商品開発、新たな海外を含めた販路開拓など、県と連携して支援を行いたい。

議員 喫緊の課題として令和8年度の予算を含め、有効な支援策を考えているか。

町長 先の補正予算（12月4日）で陶土代への支援は可決したので即対応する。8年度の当初予算は、業界と必要に応じて意見交換を行い、短期的・中期的な視点に立ち、可能な限り要望に即した必要な支援策を取りまとめたい。



オレンジあんしん見守り体験（徘徊模擬訓練）



本町スタッフの高齢者対応は素晴らしい。しかし、独自支援策については消極的。

正直首をかしげる。もっと寄り添った「思いやり」予算を。



質問項目

- 波佐見町公共施設等総合管理計画
- 事業評価

事業評価内容の扱いは

町長 ホームページ等で結果を公表する

三石 孝 議員



ほとんどの公共施設は、昭和40年代の人口増加と社会の変化に合わせて整備された。これらの施設の長寿命化の計画が、令和4年に改正された公共施設総合計画である。建物系とインフラ施設系それぞれに大きな財源を伴うことから、計画的な実施が求められている。

議員 今回の改定後、計画どおりに実施されているか。

町長 施設の整備、更新、長寿命化については順調である。

議員 すべての計画の始まりは、現状の把握であるが、その基礎となるデータは何か。

町長 水道の場合は、町内に配管されている約180kmの水道管、町道は道路台帳、建物系は耐用年数である。

議員 町道についての基礎データには、初期年度も加えるべきではないか。

町長 残念ながら、初期年度に関するデータが改良工事等の際、置き換わってしまい確認できない。

議員 財政面からの計画によると、今後35年で、建物系に225億円、年平均6.4億円。水道は154億円、年平均4.4億円。町道は91億円、年平均2.6億円。莫大な財政の確保が必要となるため維持管理方法の検討を要するとある。それぞれの検討内容は。

町長 水道は、経営戦略策定業務を実施し、効率の良い更新を進めている。町道は、おおむね計画通りである。施設は統合と縮小の両面から検討している。

議員 建物系の公共施設について、4月に新設された施設整備室が担当ということであるが、現在受け持っている業務の数はどれぐらいか。

町長 7年度の業務で70本。8年度の予算資料として30～40本である。

議員 業務の特殊性から、技術職が必要と聞くと募集の状況はどうか。

町長 一般職が異動で配属されてもすぐにできる仕事ではない。募集しても応募がない。民間企業の給与や待遇の良さが、有資格者の公務員離れを起こしていると考えられる。

議員 周年募集や求人サイトの活用、また建築系の高卒者を受け入れて、育成するなど何らかの工夫を行ってはどうか。

町長 技術系の職員の採用については、将来に向けての投資と考え検討する。

議員 町道については、「波佐見町道路ストック総点検」に基づいて、計画的な維持補修管理を行うとあるが、主要道路以外でも行うべきではないか。

町長 現在、点検を始めたところであり、定期的にどこまで行えるか試行錯誤しているところである。

議員 ストック総点検は、遠方からの目視や近距離での目視、道路状況（ひび割れ・わだち堀れ・凹凸等）を把握することから始まり、定期的に計画的な維持修繕管理を行うことである。雨が上がった時が道路の状況がよくわかるので実施してもらいたい。

また、県道も含めて現状を把握しておくことが、県への要望の際、役立つのではないか。

町長 県道までは管理するとなると広すぎて対応が厳しいが、県への情報提供は普段から行っている。



道路写真

事業評価の必要性は、9月議会で明らかになった。その後の状況を確認する必要がある。

議員 評価の体制づくりはどうか。

町長 各課において1次評価、課長クラスで2次評価、町長・副町長で最終評価とする。

議員 評価の時期・内容はどうか。

町長 本来は、7月に各課に依頼、9月に振興計画、その後に予算編成となるが、今年は11月20日に各課依頼、12月末まで各課評価、1月末までに2次評価・最終評価を実施する。町単独事業を評価対象とし、ソフト事業を500万円以上、ハード事業を1,000万円以上としている。廃止・休止・拡張・改善等を検討する。



道路は普段の生活には欠くことのできない「当たり前」の存在。

計画は、今後幾度となく更新されるであろうが、初期年度も管理できない部署の計画は説得力に欠け、疑問が残る。



傍聴者の声

- 傍聴者が少なく残念。多くの町民に聞いてほしい。(70代)
- 議場の入口の手すりを両方つけてほしい。(70代)
- 答弁が聞きづらかったが、町長の言葉は、はっきりして聞きやすかった。(70代)

モニターの声

議会広報について

- 文字数の制限があると思うが、もう少し内容が濃ゆければよい。
- 各委員会の事務調査は、それぞれの事業内容が理解できた。
- 米価高騰の「緊急アンケート」は、若い世代の考えが分かり興味深かった。
- 「議会だより」を読むことで傍聴できなかった議員の方の内容を改めて確認ができた。
- 「つぶやき」の内容は、特に核心をついたものが多く、とても興味深く拝見した。
- ホームページは、よいツールになっていると思う。
- パソコンや携帯電話を日常的に利用できる世代にとっては、とても有効な手段である。波佐見町の高齢者には他の手段での情報提供も必要では。

(170号)



(171号)



(172号)



(173号)



次回定例会は

2月26日から3月19日までを予定しています。



「議会だより」へのご意見をお待ちしています。

◀ご意見QRコード

編集後記



新体制で「議会だより」を発行して1年が経ちました。この間に左開き、全面横書き、一般質問を1頁にと変更してきましたが、いかがでしょうか。「モニター会議」を機に、一般質問に立つ理由を改めて考えてみました。私見ですが、町政全般を厳しくチェックすることは勿論のこと、町民の思いを代弁し、やり取りの中で町の取組みや課題を広く明らかにするためだと考えます。一般質問をすることで、事業を評価したり、改善を求めたり、新たな施策を提言したりできます。

今年もできるだけわかり易く、正確に伝わる紙面づくりに全員で努めてまいります。
(岡村真由美)

「議会だより」編集委員

委員長	岡村 真由美
副委員長	澤田 昭 則
委員	前田 博 司
	脇坂 正 孝
	三石 孝

発行責任者

議長 尾上 和 孝